

## A店から見るボランティア組織論についての考察

多摩大学経営情報学部マネジメントデザイン学科

下村耕介

はじめに

非営利組織におけるメンバーの協力や調達において、メンバーに生きがい感を与えることは重要な役割を果たしている。生き涯感とは、自分のしたいことと義務感というものが一致したときに感じられるものであると本論では定義する。

一般的に営利組織においてメンバーの協力は目的に応じた報酬によって調達することができる。組織はお互いに意見を伝達できるメンバー、貢献しようとする意欲、共通目的、この三つの要素から成立する。では、非営利組織では協力のメカニズムは営利組織と何が違うのか。ボランティア組織とも呼ばれる非営利組織の形態は単なる集団からヒエラルキーを持った組織まで多様である。非営利組織は定義しにくく、ボランティア組織も営利組織以外の残余領域の一部と見なされてよいのか判断が難しいのが現状である。

非営利組織では、参加者の自発的、自主的な意欲を最大限に生かす組織であると大筋の合意が得られそうであるが、さらに言えば無報酬の参加型からどのようにすれば自発的・自主的な意欲を導き出せるか、自発性や自主を与える要因はどのようなものかは実は理論的にはまだよく明らかにされていない。

そこで本論では高齢者の居住支援を行っているNPO、A店を例に、ボランティア組織における協力を導き出すメカニズムについて検討を行う。

調査対象：A店管理者 A氏

調査方法：インタビューによる質的データ。